

外国語絵本の読み聞かせと国際交流会を5回実施し、100名以上参加した

環太平洋大学 国際センター 国際交流推進室

活動の目的

絵本の読み聞かせを通じて、参加者に異文化に親しみ、理解をしてもらう。

活動の内容及び経過

この活動は、本学の留学生が、子どもたちや、地域の方々を対象に行っているもので国際交流活動の一つである。今回助成をいただいた活動は、留学生が日本人の小学生とペアを組み、留学生の母国の昔話を紹介する活動であり、「お話会」と呼んでいる。

この活動では、留学生が母語で物語を語り、小学生がそれを翻訳した日本語を語る。物語を外国語と日本語の交互に語ることで、参加者が留学生の母語を鑑賞するとともに、意味も理解できるように工夫している。また、お話を理解するために写真やイラストを見せ、参加者の物語の理解の助けとした。

この活動は、3年前から地域の図書館や「早島いきいき広場」、「倉敷国際ふれあい広場」、本学等で行ってきたものである。2018年に国際センターに国際交流室ができてから、読み聞かせた物語を絵本にまとめ、地域の小中学校や図書館等に贈呈している。今年度も、いただいた助成金を使い、モンゴル語とベトナム語の絵本を作成した。

今年度は、コロナウィルスの影響で、2月、3月に予定していた活動はできなかったが、本学で2回、早島町立図書館で3回活動を行った。毎回20名程度の参加者がおり、子どもから大人まで楽しんでいただけたと自負している。参加者の反応は、お話の準備をし、参加者の前でお話を語る留学生にとっても、勇気づけられ、自国の文化を紹介することに誇りを感じられているようだった。

また、「お話会」の後は、文化紹介やグループに分かれての交流会を行い、より異文化理解ができるプログラムとして、今後もこのような活動を続けていきたいと考えている。

活動の成果・効果

外国語の物語を外国語で語るというと、「言葉が分からないのに理解できるのか」、「子どもにはわからないのではないかと」疑問を投げかけられることが多かった。この活動を始めたばかりのころは、交流会の担当者も、「お話」を語る留学生も、このような疑問を持っていたようだった。しかし、実際に「お話」を始めると、大人よりも子どもの方が、物語に興味を持って集中して聞く様子が見られた。

これは、「お話」を語る者の「語り」の技量にも左右されるのであるが、まず、子どもたちは、外国語の音に反応し、時にはクスクス笑いながら熱心に耳を傾けてくれる。「語る」のが上手な学生の「お話」には、日本語の訳は必要が



ないくらい反応がある。検証はできないが、この活動が、普段日本語しか聞いていない子供たちに何らかの影響を与えていると予想される。

留学生とペアになり、「お話」をしてくれる小学生にとっては、打ち合わせから始まる留学生との交流は、異文化に触れる良い体験となっているようである。この活動を気に入り、何度も参加し、「お話」をしてくれる小学生もいる。

留学生が紹介する「お話」は、留学生の国の文化が現れている。「お話」に登場する人物、動物、物にも文化は表れているが、話の展開にも、それぞれの国の文化が出ている。「お話会」の後には、参加者の年齢によって、「お話に出てきたモノを紹介し、それについて話し合う」、「お話の続きを考える」などの活動を行っている。これは単に文化を一方的に紹介するだけでなく、互いの文化を理解するための活動である。「お話会」の後の活動は参加者だけでなく、「お話」をした留学生たちにとっても、日本文化を理解するきっかけにもなっている。

以上のように、参加者すべてにとって、様々な発見と異文化理解につながる活動となっている。

今後の課題と問題点

この「お話会」が成功するか否かは、語り手の技量によるところが大きい。「お話会」で語る留学生のすべてが、「お話」が上手なわけではない。語り手の確保と育成をしなければならない。

「お話会」は、参加者に自由に來ていただいているので、毎回、参加者の年齢や人数が一定せず、また時々、「お話会」の後の交流会のテーマが、参加者の年齢に合わないなどの問題があり、今後は何らかの対策を考えていきたい。

- 代表者：田村綾子 ●所在地：岡山市東区瀬戸町観音寺
- TEL：086-908-0200 ●E-MAIL：a.tamura@ipu-japan.ac.jp
- URL：https://ipu-japan.ac.jp/
- 設立年：2018年 ●メンバー数：3名